

# 際展

境界は、一本の線として引かれる。  
しかし、分断された〈あわい〉の関係は、その線上には現れない。

此岸と彼岸の領域は、互いの内部へと入り込み、  
交差しながら、異なる深さと幅を持ち、  
両者の関係を編み込んでいく。

ここで生起する編成のプロセスこそが、  
都市における「際」である。

そして、その際の集積によって立ち上がる都市像を、  
“Interknitted Town”と呼ぶ。

2026年 5月28日 木 ~ 5月31日 日

早稲田大学 西早稲田キャンパス 55号館アトリウム

東京メトロ 副都心線「西早稲田駅」より徒歩0分 (〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 55号館 1階)

8:50 ~ 18:40 (最終日は13:00まで)

入場  
無料

5月30日 土 14:30~17:00

統括シンポジウム開催

登壇者：後藤春彦・石川初・高取千佳・山下隆史 他

会場：55号館イノベーション・ラボ (展示会場横)



# 際の都市デザイン論 シンポジウム

## 都市を「分ける」から「編む」へ

5月30日 土

入場無料・申し込み不要

早稲田大学 西早稲田キャンパス  
55号館1階イノベーションラボ

14:30 ~ 17:00

シンポジウム終了後、同会場で懇親会開催

私たちは長らく、境界を「線」として扱ってきました。けれども、その線のまわりには、つねに揺らぎや重なりが生じていました。際展で扱うのは、その「線」そのものではありません。そのまわりに立ち現れる、関係の生成と変容の場としての「際」です。

都市を「分ける」ことから、「編む」ことへ。いま問われているのは、そのような発想の転換です。

後藤春彦研究室では、「際の都市デザイン論」を提示し、その理論的帰結として、“Interknitted Town”を構想してきました。本シンポジウムでは「際の都市デザイン論」に向けて議論を深めます。

### 第1部 住宅地からまちのコモンを考える

#### 住宅地におけるコモン創出の実践

山下 隆史 (建築家・ポラスグループ(株)中央住宅)

#### プロジェクトのあゆみとそれぞれの論点

山村 崇 (東京都立大学 准教授)

岡村 竹史 (早稲田大学 上級研究員)

吉江 俊 (東京大学 講師)

田邊 寛子 (早稲田大学 客員上級研究員)

### 第2部 際の都市デザイン論へ

#### 総括と展望

後藤 春彦 (早稲田大学 教授)

コメンテーター：石川 初 (慶應義塾大学 教授)

高取 千佳 (東京大学 准教授)

### 登壇者



後藤 春彦  
早稲田大学  
教授



石川 初  
慶應義塾大学  
教授



高取 千佳  
東京大学  
准教授



山下 隆史  
建築家  
ポラスグループ(株)中央住宅



山村 崇  
東京都立大学  
准教授



岡村 竹史  
早稲田大学  
上級研究員



吉江 俊  
東京大学  
講師



田邊 寛子  
早稲田大学  
客員上級研究員